

第 161 号 +α
2025 年 3 月発行

社会福祉法人慈生会 ベトレヘム学園



Instagram

HP



〒204-0024 東京都清瀬市梅園3-14-23 TEL 042(491)2529 FAX 042(491)7827

地域の方に見守られて

小さいころ、近所でいたずらをした時にご近所の方に囲まれて叱られたことがあります。その時は怖いやら申し訳ないやらの思いをしましたが、今思えばそれだけ地域の方に見守られていたのだと思います。最近では場所によってはご近所付き合いも希薄になっていると聞きますが、そんな中でもベトレヘム学園は地域の方をはじめ、たくさんの方に見守られていると感じます。夏には納涼祭、秋には芋掘りを一緒に楽しんだり、地域の方や学生さんの開催するイベントに参加したり、ボランティアさんやワークショップの方々にお世話になっている子どもたちもいます。フレンドホームと言って週末や長期休みの時などに子どもたちと交流して下さる方もいますし、お顔が見えなくてもベトレヘム学園のことを何かと気にかけて下さる方がいます。皆さまのお力が子どもたちの安心できる居場所や

楽しい時間や学びの場となっています。いつも本当にありがとうございます。

ベトレヘム学園では子どもたちが卒業した後のアフターケアも大切にしていますが、困った時に助けを求められる人が近くにいてくれたらこんなに嬉しいことはありません。友だち 100 人までは作れなくても、皆さまのように信頼のできる誰かとつながっていかれることを願い、これからも支援していきます。学園には地域交流ホールという施設があるのですが、こちらでも希望とこちらの時間が合えばお貸出しできます。ご遠慮なくお問い合わせください。今後とも子どもたちはもちろん、ベトレヘム学園で働く職員を温かくそして厳しく見守って頂けると嬉しいです。どうぞよろしくお願い致します。

<里親支援専門相談員 鈴木真奈美>

どんぐり祭

どんぐり祭前日、11月2日。その日は雨風が強く例年のような前日準備がままならなかった。天氣的にも気持ち的にも「開催できるのか？」と多くの職員が思っている中、施設長を始め長くベトレで働いている諸先輩方は「でも、どんぐり祭って雨降った事ないのよ」と口を揃えて言っていた。翌日の天気は晴れ予報。それでも朝を迎えなければ不安だった。一夜明け、朝からド晴天。沢山のお客さん、卒園生、旧職員にも来ていただき、大盛況だった。

今年も無事に（本当は色々あったけど）終われた。年に一度のホームカミングデーでもあるどんぐり祭。「でも、どんぐり祭って雨降った事ないのよ」と言っていた諸先輩方が卒園生と話していると、外の方を迎える時や普段の役職の時とは違う、「あの頃」の顔を見せる。やはりこの日は特別な日。来年度もぜひ、晴れ空の下で諸先輩方のその顔が見たい。今年度もありがとうございました。またお待ちしております！

<岡田>

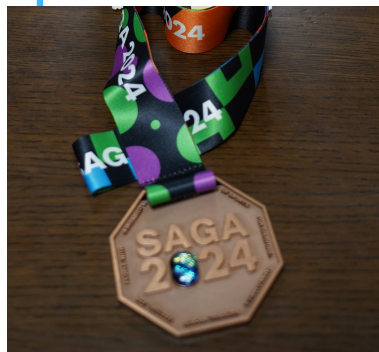


クリスマス

クリスマスと言えばサンタ、サンタと言えばプレゼントです。クリスマス時期になると、プレゼントが待ち遠しくてソワソワしてしまうというのは誰しも経験のあることなのではないでしょうか。学園の子も例外ではありません。12月になると、おもちゃのカatalogとにらめっこして、“サンタさん”へプレゼントをお願いします。お願いされた調達係の“サンタさん”は、ひそかにプレゼントをお願いします。イブには配達係の“サンタさん”にバトンタッチし、プレゼントを届けにいきます。ベテランのサンタさんが子ども達に夢を届ける姿を、新米のサンタさんが見て学んでいくのが風物詩となっております。みんなが大喜びしている姿を見て、サンタ稼業も悪くないなあとしみじみ思うのです<橋本>



全国大会出場



学園の高校三年生が陸上の全国大会に出場しました。TVで入場の様子が見られると知り、学園の子たちはTVで入場行進を見ていました。園内では自分らしく過ごしていても、少しだらしない面がばれてしまっている姿が下の年齢の子には良い刺激になったと思います。

SNSの普及により、同年代の楽しみ方、活躍の仕方が自分の関われる範囲を超えて情報として手に入るようになりました。何にでもなれるようになった結果、最近の子どもは何を頑張ればいいのか。選択肢が多すぎて戸惑っている様子にも感じられます。その中でも学校に通い、勉強を頑張るというシンプルな努力の形を見せてくれたことは、一緒に暮らす子たちも一つロールモデルとして感じられたと思います。素直に「すごい」と褒める子どもたちに素直さを感じつつ、彼ら自身もそれぞれの形で自分の力を発揮できる形で進路のことを考えていけると良いと改めて感じました。<川瀬>

編集後記

今回初めての試みですが、ホームページのみで「メタセコイヤ」をお届けします。

秋から冬の間インフルエンザやコロナなどの多数感染は起きず、子どもたちの健康は守られました。今は卒園生を送る行事が終わり、それぞれの門出の日を迎えています。学園が少し寂しくなる時期ですが、卒園生にとっては新たな“自分の居場所”が見つかる様見守って行きたいと思います。<鈴木則子>